

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.08

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

ALPS処理水による海洋生物の飼育試験

ALPS処理水を含む海水で海洋生物を飼育し、これまでの科学的知見との整合を実際に確認します

生物の生体内におけるトリチウム濃度の動きは、これまで、国内外で数多くの研究がなされ、知見が蓄積されています。

当社は、このような科学的な知見について、実際にALPS処理水を含む海水で海洋生物を飼育し、データを確認する「飼育試験」を行います。この飼育試験では、過去の実験結果と同じように「生体内でトリチウムは濃縮されず、また、生体内のトリチウム濃度が生育環境以上の濃度にならないこと」をお示ししたいと考えています。

2022年10月3日から、水槽のトリチウム濃度を、放出時の上限濃度(1,500ベクレル※/ℓ)程度に調整した水槽で、ヒラメの飼育試験を開始しました。海洋生物の飼育状況は、ライブカメラ映像、ホームページやSNSによる飼育日誌の公開等を通じて発信してまいります。

飼育試験は、社外専門家の専門的・技術的な支援をいただきながら進めます。今後は、海洋生物の生体内のトリチウム濃度等を測定し、その分析結果は随時公開します。

※放射性物質がどれくらい放射線を出す能力があるかを表す単位



【飼育水槽のカメラWeb公開】

<https://www.youtube.com/channel/UCLen8NHHX2WrMvn6ZYfAJJA/featured>



皆さまからの声におこたえします

Q 海洋生物の飼育試験は、いつまでに、何が分かるのですか？

A 今回の飼育試験では、海水で薄めたALPS処理水で飼育した海洋生物と、通常の海水で飼育した海洋生物の飼育環境(水質、温度等)、飼育状況(飼育数の変化等)など、生育状況に有意な差がないことを確認します。

また、国内外での過去の研究結果では「生体内のトリチウムは濃縮されず、生体内のトリチウム濃度が生育環境以上にならないこと」が確認されており、飼育試験でも生体内トリチウム濃度と海水内トリチウム濃度を比較し、検証します。

飼育状況については、飼育水槽のカメラによるWeb公開や、「飼育日誌」のホームページやTwitterの公開を通じて日々お知らせし、飼育状況については、毎月とりまとめて公表していきます。さらに、2022年度末に飼育試験のとりまとめとして、評価を公表する予定です。



【Twitter】

<https://twitter.com/TEPCOfishkeeper>



【海洋生物飼育日誌】

<https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/breedingtest/index-j.html>



ALPS処理水に関する情報はこちらをご覧ください
▶【処理水ポータルサイト】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/>



トリチウムの科学的性質等を解説しています
▶【トリチウムについて】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/watertreatment/images/tritium.html>



福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶【皆さまのご意見をお聞かせください】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大熊町大字夫沢字北原22